

管理スクリプトで設定されたコール制御変数を、ルーティング スクリプトがアクセスできない理由

目次

[概要](#)

[前提条件](#)

[要件](#)

[使用するコンポーネント](#)

[表記法](#)

[問題](#)

[解決策](#)

[関連情報](#)

概要

このドキュメントでは、管理スクリプトに設定されているコール制御変数がルート スクリプトで参照されない理由について説明します。このドキュメントでは、Cisco Intelligent Contact Management (ICM) 環境の管理スクリプトとルート スクリプト間でデータを共有する方法についても説明します。

前提条件

要件

ICM スクリプト エディタに関する知識があることが推奨されます。

使用するコンポーネント

このドキュメントの情報は、すべての ICM バージョンに基づくものです。

本書の情報は、特定のラボ環境にあるデバイスに基づいて作成されたものです。このドキュメントで使用するすべてのデバイスは、初期 (デフォルト) 設定の状態から起動しています。稼働中のネットワークで作業を行う場合、コマンドの影響について十分に理解したうえで作業してください。

表記法

ドキュメント表記の詳細は、『[シスコ テクニカル ティップスの表記法](#)』を参照してください。

問題

Set Variableノードは、コール変数の値を設定します。スクリプトでコール制御変数を参照する構文は次のとおりです:

`Call.variable`

この状況で休日の値をAdministrativeスクリプトおよび設定Call.PeripheralVariable8を実行すると、すべてのルーティング スクリプトは値にアクセスしません。 [図 1](#) に例を示します。

図1 -コール制御変数を設定するアドミニストレーティブ スクリプト

解決策

Administrativeスクリプトは、休日の値にCall.PeripheralVariable8を設定します。ただし、コントロール変数は、Administrativeスクリプトとルーティング スクリプトで共有することはできません。

Administrativeスクリプトとルートで変数は合格にはグローバル ユーザ変数のwrite、スクリプトを使用します。グローバル ユーザ変数により、各ユーザ変数になる:

- 名前の先頭に user を使用する。
- サービスなどのオブジェクト タイプに関連付けられている。これにより、ICM ソフトウェアは、システム内でそのタイプのオブジェクトごとに変数のインスタンスを保持できます。
- 永続的または非永続的な変数として指定されます永続的な変数は、CallRouterの再起動で値を維持します。非変数は、CallRouterの再起動で値を保持します。

注: ユーザ変数に格納できる値の長さは 40 文字以内です。

関連情報

- [テクニカル サポートとドキュメント – Cisco Systems](#)